

체Ⅲ부      자료  
第Ⅲ部      資料

資料1 日程表

Mission to KOREA 2005		
05-Sep-05 Mon DAY 1		
AM	名古屋空港発	11:40 KE754
	釜山着	13:10
PM	バスにて晋州市へ移動 晋州教育大学校 ・総長表敬訪問	
Evening	レセプション(晋州主催) 東邦Hotel	
06-Sep-05 Tue DAY 2		
AM	付設小学校訪問 付設小学校模擬授業準備 ランチ(小学校児童とともに)	
PM	・大学院生による交流授業実施(学部学生は各クラスで交流活動) ※韓国小学校の授業を実体験する。 ・教員と意見交換	
Evening	レセプション(付設小教員:派遣団主催) 夕食:ホームステイ	
07-Sep-05 Wed DAY 3		
AM	ホームステイ先及び晋州教育大学校学生との交流 韓・日の歴史について意見交換	
PM	韓国の教員養成制度 李 榮晩教授	
Evening	夕食:ホームステイ	
08-Sep-05 Thu DAY 4		
AM	晋州教育大学校学生と大学祭参加準備(共同作業) ※韓国学生との共同作業により相互理解を図る(白 南権教授)	
PM	晋州教育大学校大学祭参加(学生・教員及び地域住民との体験的交流) 企画:玉せん, 文字せん 夕食:ホームステイ	
09-Sep-05 Fri DAY 5		
AM	嶺南大学校へ移動 嶺南大学校の学生と交流 ランチ(嶺南大学校学生とともに)	
PM	慶州見学	
Evening	レセプション 晋州市へ戻る	
Evening	東邦Hotel	
10-Sep-05 Sat DAY 6		
AM	地域の小学校訪問(訪問先調整中、李先生) 児童との交流及び教員との意見交換	
PM	大学院生は大学院授業参加(現職用) 学部学生は晋州市内見学 ※豊臣秀吉朝鮮出兵で、上陸・侵攻した地を韓国側の立場から理解する。 成果発表とレセプション「新しい時代の文化交流」鈴木真雄教授	
Evening	東邦Hotel	
11-Sep-05 Sun DAY 7		
AM	バスにて釜山へ	
PM	釜山市内見学 Hotel(釜山)	
12-Sep-05 Mon DAY 8		
AM	釜山市内教育施設見学	
PM	バスにて空港へ 釜山空港発 17:10 KE5753 名古屋空港着 18:40	

※ この事業は愛知教育大学学長裁量経費および財団法人日韓文化交流基金による「青少年・草の根交流」の助成を受けて実施したものである。

## 資料2 「日韓教育文化通信使」シンポジウムプログラム

日時：2005年10月22日 13:30～16:30

場所：愛知教育大学第二共通棟 411室

### プログラム

#### 13:30 一. 挨拶

愛知教育大学理事(副学長)  
細江 保司 氏  
愛知教育大学理事(副学長)  
鈴木 眞雄 氏

#### 13:40 二. 特別講演

大韓民国 晋州教育大学校 教授  
学生部長 李 榮晩 氏  
「姉妹校交流の継続と発展」

#### 13:50 三. 学部生による研修報告

##### <交流>

・ホームステイ	南佑美、松長拓麻、平山美彩子
・大学祭参加	太田奈緒美
・嶺南大学校の学生との交流	土山真有美

##### <歴史>

・仏国寺、石窟庵	渡辺絵梨奈
・徐載弼記念館	岡村聡子
・金海博物館	清水梨沙
・晋州城	谷有希子

##### <教育>

・授業体験	神谷佑代
・日韓の教育	津田絢子、宮田佳代子

15:10

#### ～休憩～

#### 15:30 四. 院生による研修報告

・韓国の国語科学習指導過程に関する研究	岩田祥典、張恩花
・韓国の初等英語教育の在り方から学ぶこと	佐野貴子
・晋州教育大学校附設小学校での授業実施に関する報告	佐方貴文

#### 16:00 五. 特別講演

大韓民国 晋州教育大学校教授  
孔 泳泰 氏  
「韓国の英才教育政策」

#### 16:10 六. 質疑応答

#### 16:20 七. 挨拶

愛知教育大学助教授 (日韓交流グループ代表)  
山根 眞理 氏

※ このシンポジウムの実施にあたって、財団法人大幸財団から「研究機関の国際交流特別助成」を受けた。

## 姉妹大学との交流の継続と発展

李 榮 晩

(大韓民国 国立晋州教育大学校 教育学科 教授)

### I

1997年5月、愛知教育大学と晋州教育大学校の間に交流協定が結ばれて以来、二つの大学の学部生、大学院生、教授など、多くの人的交流がありました。特に、2004年と2005年9月、愛知教育大学の学生が私たちの大学を訪問したこと、そして2005年5月に私たち大学の学生が愛知教育大学を訪問したことは、互いの大学にとってよい経験になりました。若者たちを中心にした姉妹大学間の交流活動は、充実したプログラムを通じて、若者たちが多様な世の中を眺める正しい眼識を広げることに寄与してきたと確信しています。今後も二つの大学間の学生交流が活発に行われるであろうという前提の下、その交流をより一層発展させるために、考慮しなければならない点を3つ申し上げたいと思います。

### II

まず、姉妹大学間の交流の水準は①機関対機関交流（協定締結、代表交流）⇒②機関を通じた人的・物的交流（教授、学生交流）⇒③自由な人的交流（心の交流）に拡大されると言えます。姉妹大学の相互交流がどのような水準で行われても、この交流を通じて私たち若い世代が得なければならないことは、相手側に対する理解と尊重は勿論ですが、お互いの心を取り交わすことで、正しいパートナーとしての姿勢、温かい兄弟愛を得ることでしょう。2004年と2005年の愛知教育大学の韓国教育文化訪問団は、短い日程でしたが、私たち大学の学生たちに多くの印象を与えました。学生たちは、違う国、違う人ではなく、私の兄弟、私の姉、私の友達との出会いに対して、絶えることなく話をしていました。愛知教育大学と私たち大学間の交流は、すでに機関対機関の形式的な交流水準を超越し、心の交流水準に到達していると自負しています。今後もこのように、心と心を取り交わす交流が継続されればこそ、二つの大学が美しいパートナーとしての役目を果たすことができ、二つの国の友好関係を増進し、二つの大学の若者が世の中に対する眼識を深めることにもつながっていくと思います。

二つ目は、交流の内容と進行方法に関することで、主に私たち大学に該当する内容です。姉妹大学間の交流内容において、互いの国の伝統文化を紹介する行事も重要ですが、学生交流を継続的に行おうとするなら、文化公演などの展示的な行事よりは、日常的な交流活動に焦点を合わせなければなりません。例えば、2005年の訪問団の中には、私

たち大学のサムルノリチームの学生が4名含まれていました。これは最初の訪問団なので韓国の伝統文化を知っていただく、また愛知教育大学の文化祭も手伝うことができるだろうという意図でした。しかし、学生交流を持続させようとするならば、大学のすべての学生たちに交流の機会を提供しなければならず、特定分野の行事中心の交流よりは純粋な交流活動を優先しなければならないでしょう。そして、学生訪問団に参加する学生たちが自発的にプログラムを作り、訪問時にどのような交流活動をするか、各自どのような役割を受け持つかを決定できるようにしなければなりません。これは愛知教育大学の学生訪問団の姿から私たちの大学が学んだことです。

3つ目に、二つの大学の持続的な学生交流を成り立たせるためには、交流活動についての多様な支援がなくてはなりません。例えば、毎年9月に開かれる私たちの大学祭に、愛知教育大学の学生たちの訪問が成り立つために、大学祭期間中のホームステイなどの交流活動支援、空港・韓国の教育現場・文化体験のため、移動時に大学のバスを提供するなど大学当局の積極的な支援が必要です。また、私たちの大学の職員や学生たちは、やはり姉妹大学との交流活性化のために積極的に奉仕して協力する姿勢を持たなければなりません。事実、ホームステイこそ他国の文化を体験する一番よい方法です。今後、このホームステイを積極的に活用して拡大するために、大学当局、大学の職員や学生たちだけでなく、地域社会の協力を受ける方法も模索しなければなりません。

### III

文化が異なる国の人々が相互交流をするためには相手の文化と価値観を尊重する基本的な礼儀を守らなければなりません。二つの文化間の差異が何であるかを認識し、その差異を認めて、配慮することが非常に重要です。それだけではなく、過ぎた過去の歴史に縛られるよりは、未来志向的な相互理解と同伴者の発展を追及する進取的な姿勢が非常に重要であります。

昔の文献にある1つの教訓を紹介しようと思います。有朋自遠方来不亦乐乎（論語、学而）「友がいて、遠方から私を訪ねて来た。これほど楽しいことはないだろう。」

今日、私は親しくしている日本の友人に会いにやってきました。また、この日本の友人は私に会いに韓国に来てくれました。そしてこれからも会いに来てくれるでしょう。友人に会いに行き、またその友人が私に会いに来る、という楽しみ。これが二つの姉妹大学間の交流を通して、私が感じる事が出来た最上の喜びではないかと思います。私はこの喜びをこれからも経験していきたいと思います。そして今後も、この喜びを経験するための準備はできています。今日ここにいらっしゃるすべての方々は、私と同じ考えを持って下さっていると確信しています。

ありがとうございました。

## 韓国の（科学）英才教育政策

孔 泳泰（晋州教育大学校 科学教育科）

### 1. 英才教育の経過

韓国では1980年度から英才教育（特に科学英才教育）を取り入れ、1983年度に京機科学高校を初めとし順次的に15個の科学高校を設立した。特に、2002年4月には国の政策を取りまとめた‘英才教育振興法’が公表され、英才教育が公教育の次元で実施する制度的な基盤が作られた。英才教育に関する必要性には共感しながらもその副作用も心配する声があったが、英才教育振興法に基づいて2002年度に既存のプサン科学高校を英才学校として指定するなど英才教育が教育政策の一部になった。ここでは、国レベルで力を入れている韓国における英才教育の現状について説明を行う。

### 2. 重要政策の方向

#### 2.1 英才教育の目的

なぜ英才教育を国のレベルで行うのか。その質問に答えるために英才教育の目的を見てみよう。教育振興法では‘才能が優れた人を早めに発掘して、生まれつきの潜在力が啓発できるよう自ら能力と素質に合う教育を実施することで、個人の自我実現と国家社会の発展に寄与することを目的とする’と規定している。一般的に一つの目的である‘国家発展’が強調されているが、これは少数のエリートを養成すべき必要性に対する認識からである。それに加え、‘個人の力量に従う教育機会の提供’とした目的で英才教育が行っていることも看過してはいけない。

#### 2.2 英才の定義

英才教育と関連してよく言われる質問は‘だれが英才なのか’である。この概念が整理されなくては教育対象者も教育プログラムも作られないのである。英才教育振興法では‘才能が優れた人で生まれつきの潜在力を啓発するために特別な教育が必要な者’と定義している、が‘英才判別基準により判断された者を英才教育対象者として選定’すると幅広く規定している。

#### 2.3 英才教育機関

英才教育機関としては、英才学校、英才学級、英才教育院がある。学生の数や教育機関の数などを見ると図1のようにピラミドの形を取っている。それらの学校はお互い連携している。

##### 2.3.1 英才学校

英才学校としてはプサン英才学校がある。一般高校と教育体制は似ているが、学生の能力に合わせた自ら教育課程の編成している。入学対象は中学1,2年生まで開いている。これらの学校は専門分野での英才を対象にしているので大学などの協力で行っている。特に、協定を結んだ理工系大学への進学は無試験で行われる。

### 2. 3. 2 英才学級

英才学級とは小・中・高の各学校で運営されている英才クラスである。ほとんどの授業は放課後、週末、休みを利用して行われている。

### 2. 3. 3 英才教育院

晋州大学も今年から英才教育院に選ばれた。初等数学、初等科学、初等情報の英才教育を担当している。英才教育院も一般学校ではないので、授業は週末と休みの期間で行っている。これらの英才教育院は数学や理科など多様な分野に対する英才教育プログラムを提供するのでプログラム式英才教育とも言われている。

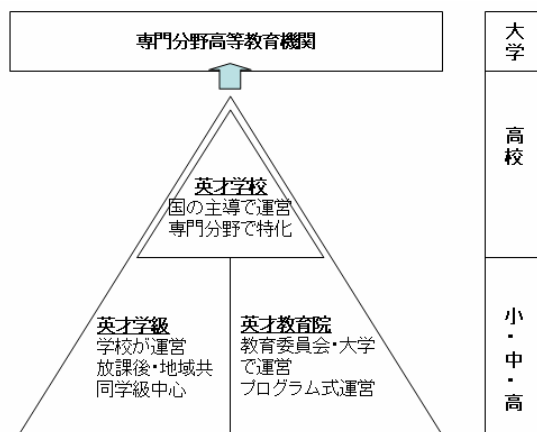


図 英才教育実行モデル

### 2. 4 英才教育対象者の選抜

英才教育機関によって選抜方法は異なるが、英才教育院では書類審査→1次筆記テスト→2次面接を通して学生を選んでいる。その選抜では‘潜在力中心’とした原則に従うべきである。学科成績で評価すると単純に成績優秀な学生を選ぶことになるので、それは英才教育の趣旨に合わない。

### 2. 5 英才教育担当教員の教育

英才教育でも担当教員の役割は大きい。英才教育を担当するためには一定期間の研修が必修要件となっている。英才学校の教員は120時間、英才学級教員は60時間以上の研修を受けることになっている。

### 2. 6 英才教育課程

英才学校は教育課程、教科書、学年制、学級編制などを自立的に行うことができるように法律で決めている。また、地域社会の多様な教育資源を活用できるようにしているし、大学または他の英才教育機関に委託教育も可能にしている。

## 3. まとめ

日本でも2002年度から科学エリートを養成するために Super Science High School (SSH) とした特別高校やクラスの運営が導入されている。韓国でのこれらの英才教育の現状をより詳しく調べることはこれらの運営にも役に立つと考えられる。

## 参加メンバー一覧

<日韓教育文化通信使 参加学生>

大学院生

岩田 直治 岩田 祥典 桐山 佳子 \*佐方 貴文 佐野 貴子  
張 恩花 廉 香順

学部生

太田 奈緒美 岡村 聡子 神谷 祐代 川端 美帆 清水 梨沙  
谷 有希子 津田 紘子 土山 真有美 平山 美彩子 南 佑美  
宮田 佳代子 松長 拓麻 \*渡邊 絵梨奈

\*...代表

<教員>

愛知教育大学

江島 徹郎 (情報教育講座)  
鈴木 眞雄 (学校教育講座・理事)  
佐藤 洋一 (理科教育講座)  
杉浦 正好 (英語教育講座)

\*\*山根 真理 (家政教育講座)

晋州教育大学校

李 榮晩 (教育学科)  
孔 泳泰 (科学教育科)

\*\*...プロジェクト代表

## 協力・支援いただいた団体等

外務省 (日韓友情年2005)

在日本大韓民国民団中央本部顧問 鄭 煥麒 氏

財団法人 日韓文化交流基金

財団法人 大幸財団

愛知教育大学生協同組合

エプソン販売株式会社

東芝情報機器株式会社

GREEN HOUSE



愛知教育大学 2004～5年度プロジェクト経費報告書

## 日韓教育文化通信使

—国際交流協定校との連携による教員養成大学学生の平和交流プログラム—

発行年月 2006年3月

編集・発行 「愛知教育大学 国際交流協定校との連携による教員養成大学学生の  
平和交流プログラム」プロジェクト（代表 鈴木 眞雄・山根 真理）

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1